
第23回福祉のまちづくりモデル地区推進部会 議事録

平成30年3月27日(火) 10:00～ 11:30 エコ計画浦和ビル3階西会議室

出席者 : 若林部会長、上松委員、小川委員、木次委員、鯨井委員、國松委員、鈴木委員、町田委員

欠席者 : 平林委員、丸山委員

関係団体 : 大橋、守富(さいたま市社会福祉協議会)、船戸・田中(さいたま市社会福祉事業団)、
渡邊、高橋 (特定非営利活動法人ライフアシスト Familish)

事務局 : 細沼、石川、増田(福祉総務課)

会議の公開 : 公開

傍聴人 : 0人

問合せ先 : 保健福祉局福祉部福祉総務課 048-829-1254

※敬称略

【次第】 1 開会

2 議事

(1) 平成29年度福祉のまちづくりモデル地区推進事業活動について

(2) 平成30年度福祉のまちづくりモデル地区推進事業(案)について

3 その他

4 閉会

【内容】

1 開会

2 議事

(1) 平成29年度福祉のまちづくりモデル地区推進事業活動について

事務局 資料1の説明(省略)

若林部会長 ただいま、事務局から平成 29 年度の活動報告について、ご説明をいただきました。委員の皆様には、事業に参加された方や、講師を務めていただいた方がいらっしゃいますので、感想や意見等をいただければと思います。

私は残念ながら、最後の学習発表会には出席することが出来ませんでしたので、この件についても教えていただければと思いますので、よろしく願いいたします。

町田委員 いつもご協力いただきましてありがとうございます。さいたま市聴覚障害者協会の町田と申し上げます。よろしく願いいたします。

海老沼小学校の体育館で学習発表会を開催しました。前は、特性ごとに発表する場所が定まっていなかったため、発表ごとにバタバタと動いていたが、今回は、特性ごとに発表するコーナーをきちんと分けて発表できていたところは良かったと思います。発表するグループが

変わっても、落ち着いて見られたというのは、とても良い点だったと思います。今、事務局からもお話がありましたが、司会進行役を置いた方がいいというのは、そうだなと思いました。発表の際に時間が余ってしまう子どもたちもいて、講師から手助けをしてみたり、ということがありました。やはり、司会の方がいたほうがいいのかもかもしれませんので、来年度はご検討いただければと思います。ご協力ありがとうございました。

小川委員 視覚障害者福祉協会の小川です。いつもお世話になります。今回は、私たちがいつも話し合いの中で要望していた、生徒とその場で話をさせていただいたので、すごく良かったです。視覚障害者の特性を学習した生徒たちは、私たち障害者と共に生きていこうという、「共に生きる」をテーマに掲げていました。今までの小学校の中では、6年生ということもありますが、すごく良かったです。先ほど、事務局からも説明がありましたが、発表の際に画用紙で模型を作ったり、人形劇で発表してくれました。視覚に障害をもつ男の子がお留守番中に、出かけていたお母さんが事故にあって病院に行ってしまったため、お母さんのもとへ一人で行くという内容でした。すごく良かったです。こういう企画を続けていただけることはすごくいいことだと思いました。

鯨井委員 発表が劇だったり、紙芝居のようになっていたりということが、時間をかけてやっていただけたなということと、私たちが講師をしている知的障害のことを理解できることは難しかったので、今までは私たちが話した内容ではなくて、ホームページで調べてくれたかなという内容だったのですが、私たちが話した言葉を受け取って話してくれた事があったので、とても励みになりました。6年生ということもあり、よく考えてくれていて、自分のところに吸収してから発表しているところが良かったと思いました。

鈴木委員 (要旨が) すっきりとまとまっていて、この部会の本義にのっとったような発言が見受けられました。「バリアフリーに関心を深め、障害の有無に関わらずだれもが快適に暮らすことができる地域になればいい」というようなまとめかたを、児童がしていて、やはり6年生だなという印象をもちました。もう一点は、健常な人も高齢になるし、また、障害をもつ場合もある。そういった意味では、対等である。したがって、自分のできることから、お手伝いをしたいという発言があり、素晴らしいなと思いました。

講師の先生方が、とても具体的に事例を話されていて、それを生徒が受け止め、とても身のある内容になったのではないかと思います。

國松委員 学習発表会に参加できなかったのですが、話を聞くと、今回の方がしっかりやれたという感じがあります。それはよかったかなと思います。

- 木次委員 やはり、6年生ということと、普段の先生方のご指導が良かったのか、一人一人自分達の表現方法がとても工夫されていました。例えば、聴覚障害の発表では、手話で自己紹介し、無音で発表して皆にどういう風に伝わるかなど、とても工夫されていました。私たちが普段気付かないところにもよく気が付いていて、このまま成長したら楽しみだなということと、中学校に行っても、ここで勉強したことを知らない友達に教えるとも話していたので、これからの明るい感じがしました。
- 渡邊 (Familish) 学習発表会に出席させていただきました。その時に、車いすだと段差があると通るのが難しいなど、よく覚えてくれていました。スーパーマーケットに行った時に、車いすだとこういうところは通るのが大変ではないか、とか、手伝いが必要ではないかなど具体的な事例を考えて発表してくれたので、とてもありがたいことだなと思いました。
- 若林部会長 事務局にお伺いします。学校の方で発表の準備をやられていると思いますが、何か特別な時間を設けるなど、まとめ方について先生も工夫されたのでしょうか
- 事務局 発表の仕方について、学校の先生と打ち合わせをさせていただき、発表時間の問題や、一人で発表するのは恥ずかしくってしまう生徒がいるという話もありましたので、グループで発表することにしました。準備の時間につきましては、6年生ということもあり、卒業式の準備が忙しい中でなんとか仕上げたと先生から話を伺っています。
- 若林部会長 学習発表会に保護者の方々は参加されたのですか？
- 事務局 当初、授業参観に合わせ、3月5日に開催予定でしたが、開催日が変更になってしまったこともあり、保護者の方の出席は6名でした。
- 大橋 (社協) 推進協議会の前の推進検討部会から参加させていただいていました。当時、推進検討部会の中で、まちづくり条例やハートビル法などハード面について言われていたが、ただ、ハード面だけでなくソフト面もきちんとしないと機能しない。そのためには、福祉教育が必要だということで、当時の参加者の皆さんと協議をして進めてきたところがあります。こうして、福祉教育を進めていく中で、一昨年、相模原で障害者の殺傷事件がありました。彼(容疑者)の発言で「障害者は社会に不要だ」というような発言があったと思います。彼の発言自体どうこうではなく、彼の発言に賛同した人が、ネットを通じて80万~100万といわれた。果たして、私たちがやってきた福祉教育って何だったのだろうと、事実を突きつけられたところです。何を大切に福祉教育をしていかななくてはいけないかというところで、関係者の方々と話す機会があったのですが、障害者の方や高齢者の方がこんなに頑張っているからすごいとか、障害者だけどこなにもできるという相対的価値ではなく、刺殺されていい人、いなくなっいい人

なんて一人もいない、その子が存在すること自体に意義があるという、絶対的価値というものをもっと大事に伝えていかなければならないのではないかということを感じています。

また、障害者の方々を講師として学校に派遣しているNPOの方々と話す機会がありまして、障害者の皆さんが学校で伝えることというのは、障害全般のこととか社会福祉のことではなく、その方が生きてきて感じた事、あるいは、将来不安に思っていることなど、その方にしか話すことが出来ないことが、子ども達の心に響いていくのではないかということを考えているところです。

若林部会長 今回、子ども達が自分達の言葉で発表できたことは、良かったなと思います。

高橋 (Familish) モデル地区推進事業は福祉の入口というところで、実施していただいていると思っています。基本的に車いすの使い方を中心に子ども達に学習してもらいました。まだ、小学生ということもあり、気持ち的な部分は発展の途中という中で、環境についての入口から入って、中学、高校と進学してもう少し理解力が得られたときに、障害をもっている人がすごい、すごくないとかではなく、地域で暮らす当たり前な人というところで、ノーマライゼーションを理解していくような学習の進め方について今後検討されているのか

若林部会長 小学校ではこういった取り組みをしているが、中学、高校に進学するなかで福祉教育はどういうふうに進めているかということですね。

高橋 (Familish) 学習発表会での発表の内容はとても素晴らしいなと思って聞かせてもらっていました。学習発表会後の挨拶のなかで、「障害者の皆さん、今日はありがとうございました」という一幕がありまして、「健常者」、「障害者」という分けられ方が自然になされているのかなと思いました。その点については、子ども達に教えてもすぐには理解が難しいということはわかっているので、そういった学習は、中学、高校に進学する中で、学習するのかなと思っていましたので、質問させていただきました。

船戸 (事業団) 課題としては残りながらも、深く議論ができなかったところだと思うのですが、この会議のなかでも話がでたと思いますが、小学校を回ることでいいのかという大きなテーマがあります。1年に1校ずつ回ったとしても、全部回りきるのに100年以上かかります。これはこれとして意味のある事だと思いますが、それでいいのかというテーマは一方にあると思います。この事業に接した子どもたちが、そのあとどうしているのかということも心配です。その子たちがそのあとどういった生き方をしているのか、地域のなかでどんなことを考えながら大人になっていくのか、気になるところです。

もう一つは、毎回、小学生でいいのかということで、中学校で実施したことも2度ありました。

ですが、私の個人的な感想になります、中学生よりも小学生の方が、真剣に取り組んでくれたなという印象があります。中学生だとどうしても、“べき論”が先に来て、小奇麗にまとめて終わってしまう感じがしました。やり方に問題があったかもしれませんが、対象者をどこにもっていくのかについて、時には一般市民の方を公募するとか、この事業はモデル地区ですので、ある地区に絞って、そこをモデルに次の事を考えることをやってもいいのかなと思います。小学校は期待されていると思います。別の仕組みを作ることは必要かなと考えます。地区社協や各区の社協、我々事業団も協力しながら、各区役所が主体になっていただいて、区ごとにやっていただければ1年に10か所できる。モデル地区部会がやっていることが、全市的なものに繋がって行って、常にどこかの地域でやっているということに発展するためのモデルだと思いますので、そろそろ方向性を少し考えなければいけない時期にきているなということは毎回言っています。本日、こういうテーマになったので、次の段階を単に踏襲するのではなく、来年の実施校は決まっていると思うので、学校を中心に地域の方をもっと巻き込んでいろんな方たちで構成するのも一つの考え方かなと思います。小学校と連携を図りながら、もう少し違った形で、別の切り口でこの事業を発展させて、さらに、この先どうするということもどこかで継続的な議論ができればいいなと思っています。

大橋 (社協) 地域住民の福祉教育をどうやっていくのか、福祉教育に関わった大人たちの意識が変わっていき、まちが変わっていくのだという知見が得られたのが平成19年の仲本小学校だったと思います。社会福祉協議会は、個別の事業としていろいろなことをやるのですが、それ以外に住民活動主体の原則というのがありまして、いろいろなことを住民の皆様と一緒にやっていく中で、住民の方々が学んでいき、まちを変えていくという手法をとっています。わたしたちの活動そのものが、福祉教育のようなところがありますので、日々の営みを通して福祉のまちづくりを進めていっているところです。中学生、高校生に対してボランティア体験講座がありまして、そこで毎年、650人の子ども達が参加していただいています。

若林部会長 他にご意見等ありましたら、お願いします。

鯨井委員 学習発表会で、発表している子が、自分の兄弟にも障害があるということをそこで言ってくれました。とても勇気がいることだと思いましたし、その子がクラスでどういうふうに接するのかなということを考えたら、良く言ってくれたなと思いました。こういったことを、普通にみんなが話せることがいいことですし、突き詰めて言えば障害という言葉自体がなくなればいいと思いました。

わたしたちが話をしていくうえで、クラスの子を「お前は障害をもっているのではないか」とい

った発言がありました。知的障害について、障害の度合や、いろいろな種類のこと、特性について話しをしますが、理解してもらうことが難しく、行動がゆっくりの子とかそういった子に対して障害をもっているというような理解をしてしまっていて、伝え方が難しかったなと思いました。

幼少期は、友達感覚で普通に話をしているが、高学年になるにつれて、障害について、壁があるところで区別されてしまっていて、中学校に進学するとなおさら区別されるようになってしまう。障害について、伝える時期はすごく難しいなと思いました。小さい頃は、普通に話をしているのだから、そこで障害のことを話さなくてもいいし。大きくなると、それは違う世界だと思われる。障害のことについて勉強する時期って難しいなと思います。

若林部会長 来年度の予定についても、これまでの意見を踏まえながら意見をいただきたいと思います。

(2)平成30年度福祉のまちづくりモデル地区推進事業(案)について

事務局 資料2の説明(省略)

若林部会長 来年度の実施校が北浦和小学校で、対象が4年生とのことです。

資料の中に「継続して実施したい」という内容が記載されていますが、どういったことを今後予定していますか。

事務局 学校にこの事業について、ご説明させていただいた時に、来年度以降はどうなるのでしょうかといった話がありました。連続した実施を希望する話もありましたが、各地区において実施している事業ですので、連続した実施は難しい旨を説明しました。ご協力いただく各団体を紹介していただきたいとの話もありましたので、その際は事務局にご相談いただき、事務局より皆様にご相談、調整させていただければと思っております。

船戸 (事業団) 桜木小学校で実施したときに、ぜひ続けていきたいというような話がありました。学校としては、1回で終わるのは残念だということでした。社協の大宮区事務所と事業団とでタイアップして実施しましょうかという話をしましたが、担当の先生が異動してしまい、それっきりになってしまいました。実施するとなると、モデル地区部会のなかでやりきれなくなると思いますし、他の学校でも希望があると思いますので、それをどうしていくのかということがあるので、どんな希望があるのかと思いました。

若林部会長 今まで、モデル地区部会で実施した学校の中で、継続して実施しているところはありますか。

船戸 モデル地区部会として継続して実施したことはありません。

(事業団)

- 大橋 (社協) モデル地区部会とは関連していませんが、継続して実施しているところはいくつかあると思います。地元の障害者の方や、施設を引き込むなどして、翌年度以降も持続可能なプログラムをどう作っていくのか考えれば、他の学校でも真似できるようなことに繋がると思います。
- 船戸 (事業団) 桜木小学校では、担当の先生に学校の授業で必要だと理解していただきました。こういった理解をしてもらえれば、モデル地区事業から離れても、地域の方々と共にやっていけると思います。例えば、社協や事業団などどこかサポートできないかという提案があれば、そこから何かをつくる事が出来るかと思えます。それを全市的に展開するのは、すぐには難しくても、事業を離れてもモデルとして何が残せるかということのをこのあと議論できるかなと思えます。
- 小川委員 視覚障害者福祉協会には、このモデル地区事業でやっていることを聞いた学校から実施依頼があります。毎年3～5人で小学校に行って話をしています。モデル地区事業のように実施しようとする、校長先生や教頭先生の理解がないと、まず実施できない。また、事業を実施するには、プログラムを組まなければならない。こういったことから、一日だけでも実施したいということで、連絡があります。
- 前回、神田小学校でモデル地区推進事業を実施しましたが、その翌年に先生から連絡があり、神田小学校の体育館で実施してまいりました。
- このモデル地区推進事業で体験学習をやった地区は、良くなります。我々が歩いていると、声をかけてくれます。やってよかったなと思えます。
- やはり、小学生でも中学生でも“やる気”が必要です。それから、校長先生、教頭先生の理解力、それと調整がとれるかどうかによって変わります。また、先ほどの話でもありましたが、担当の先生が異動されてしまうとそれで終わってしまう。
- 木次委員 学校から依頼があつて、個別に実施することも大事だと思いますが、さいたま市福祉のまちづくりを掲げている以上、各学校の先生の個別の対応ではなく、教育委員会との話し合いが必要なのではないかと思います。教育委員会のなかでカリキュラムのようなものがあれば、担当の先生がどこに異動しようと、方針は変わらないと思えますので、少しずつでも進めていけるのではないかと思います。そういったところに父兄もはいつていければよりいいと思えます。差別というのは、子どもたちが自然としていくものではなくて、親のいろいろな言動が影響していますから、地域の方々と一緒にやっていかなければいけないし、障害が“個性”だという認識をつくっていかないといけないと思えます。区別でもなく、差別でもなく、“個性”なんだということを、親も我々もそうですし、小学生のうちからそういった教育が必要なのではない

かと思います。

鈴木委員 北区の植竹小学校では4～5年生が毎年、盆栽づくりをしています。学校自体がこれを伝統としていて定着しています。私は、もう少し広げられないかと思った事がありました。これが、まさに校長先生や教員、父兄が一体とならないと実施できないということがあって、盆栽づくりをやる学校が毎年増えていくことはなかなか難しい。それは、学校をあげて実施できるか、中心になってくれる先生がいるかどうかといったこともあるかと思います。教育委員会との連携も課題です。モデル地区推進事業にいつも参加していると思うのですが、保護者の参加が課題です。

モデル地区推進事業でもそうですが、今回は学習発表会の日程が変更になったこともありますが、父兄会とドッキングして実施できれば、子どもが勉強して、そして、親御さんも勉強になって、共通認識できる。こういったことで、盛り上がりが見られるのではないのでしょうか。工夫の余地はいろいろあると思います。自治会の方はとても忙しいのでなかなか対応できないといったこともありますので、まずは、生徒の親御さん、PTA の方の参加を充実していくことからスタートしていければいいのではないかと思います。

若林部会長 来年度にむけて、いくつか検討事項がありますので、こちらについてもご意見をいただければと思います。

ふれあい学習の開催について、2日間の実施希望という話がありましたが、いかがでしょうか。

高橋 学習する特性が5つありますが、5つの特性を2日間実施するのか、特性を分けて2日間で実施するのか、どちらでしょうか。

事務局 できるだけ、少人数のグループで開催できればと考えておりますので、5つの特性を2日間できればとおもっています。ただ、講師の皆さんのご都合もあるかと思っておりますので、難しいようであれば、特性を2日間にわけて実施することも検討しています。

また、連続した2日間で実施するのか、間隔をあけて実施するのかにつきましては、講師の皆様や学校と調整させていただきたいと思っております。

船戸 わかばというクラス、特別支援学級があると思いますが、この方たちとの関りがあるかとかの関係をお聞かせいただければと思います。

事務局 人数について把握しているのみで、それぞれ何年生で、どういった障害をもっているかところまで把握しておりません。

若林部会長 他にご意見ありますか。

事務局 学習する特性についてですが、事務局案としましては、「視覚、聴覚、知的、高齢、車いす」の5つの特性を学習することを検討していますが、学校との打合せのなかで、先生から、4年生に知的障害の特性を理解するのは難しいのではないかと心配の声もありました。その点についても、皆様からご意見をいただければと思います。

鯨井委員 何回やっても、難しいことは難しいのですが、私自身、30年関わってきても分かり切れないことはいっぱいありますが、知的障害という特性を持った人もいるのだということだけでも、わかってもらえればいいのかと思います。

若林部会長 続いて、まち歩き学習についてですが、何かご意見ありますか。

若林部会長 まち歩き前のレクチャーの件と、通学路に絞ったコース設定の件です。

レクチャーは、だれがやるか検討していますか。

事務局 学校の先生、または事務局より、何を目的にまち歩きを実施するのかを事前にレクチャーすることを検討しています。レクチャーする内容につきましては、どこまで事前にレクチャーするのかといった検討事項もあります。事前に詰め込みすぎてしまい、実際にまち歩きをするときに、逆にそれが邪魔をして、ほかのことに気づけないといったことも考えられますので、内容につきましては、今後調整していければと考えます。

学校の先生とも相談させていただきますが、先生からの説明の方が、子ども達へも伝わりやすいのかなとも思います。

また、学校の要望として1学期、2学期、3学期にそれぞれ分けて学習したいとの希望がありました。夏休み期間をうまく利用できればとの意向があり、そのなかで先生から課題などを提供していただけたらとも考えています。

若林部会長 通学路に絞ったコースの設定についてですが、今年度と同じですか。

事務局 今年度につきましても通学路に絞ったコースで設定しました。歩きなれた道を見てもらうこととしています。

若林部会長 コースを設定するなかで、チェックポイント等もあわせて決めるのですか。

事務局 事前に、実際にまちを歩いて、チェックポイント等を設定させていただきます。

鯨井委員 知的の学習では、当事者がいないのと、また、体験することができないのでなかなか難しいので、歩き始める時に課題を与えて、まち歩き後にどうだったかを確認するなど実施方法について、どういうふうを実施すればわかっていたか考えていきたいと思えます。

若林部会長 学習発表会のやり方については、いかがでしょうか。

今年度は、学校のほうでいろいろ工夫していただけたのですか。

- 事務局 学校と調整する中で、時間配分の問題や、発表ブースの問題、各発表後に講師からの講評の時間を設けさせていただいたことから、グループで発表することとしました。
- 若林部会長 学校の希望としては、すべての児童が発表することを希望しているとありますが、神田小学校のときのような発表の仕方ですか。
- 事務局 今回のアンケートの結果からも、グループでの発表のほうがよかったとの意見を多数いただいていますので、来年度も少人数のグループごとに発表できればと考えています。
- 若林部会長 地域の方の参加を促すための取組とありますが、いかがでしょうか。
- 事務局 学校と打ち合わせをする中で、地区の中にボランティア団体があるとの話があり、そういったところに声をかけていくこととしています。また、社会福祉協議会へもご協力いただき、地区の社会福祉協議会へも参加を依頼させていただければと思います。
- また、学習発表会は事業参観と併せて実施することを学校へも了承いただいています。
- 若林部会長 学校との調整の問題などもあり、この会議のなかで、まだ決まっていないこともありますので、講師の皆様も各会へ持ち帰っていただきご検討いただければと思います。また、事務局にて調整を図っていただければと思います。
- 事務局 今後、学校と調整させていただきますが、委員の皆様にはご協力をお願いすることが多々でてきってしまうかと思っておりますので、その際はよろしく願いいたします。
- 若林部会長 来年度は4年生ということで、今回の海老沼小学校とは違いますので、一工夫していく必要があるかもしれませんので、そういったことも含めてお考えいただければと思います。
- また、モデル地区推進事業についても、たくさんのご意見をいただきました。これについては、すぐに結論がでるものばかりではありませんが、ご意見があったことをご認識いただいて、今後議論をしていきたいと思っております。
- 國松委員 この事業は、モデル地区を設定して進めていくことになっていますが、話に出てくるのは、それをどうやって広げていくのかということです。モデル地区を広げるために、地域で継続してやっていく、広げていくという課題であれば、高度な課題ですので、そこはどうしていくのか気になりました。それを広げていくのは、この部会の手を外して、それが進んでいくような状況にならないと無理だと思います。実施するうえで、どうしても既存の組織を頼ってしまう。既存の組織は今までにそれぞれが何かをやっています。それ以上に何かをやらせるということになりますので、まずは、新しい組織として、保護者の方の組織化に力を入れていく必要があると思います。
- 鈴木委員 新都心駅周辺でのまち歩き学習を来年度も実施予定とありますが、これは今年度と同じよう

に「ふれあいプラザ」を利用する予定ですか。

事務局 来年度も「ふれあいプラザ」にお願いできればと考えています。

3 その他

若林部会長 他に何かございますか。

若林部会長 ないようですので、進行を事務局にお返しいたします。

4 閉会

以上